

「湖山池の将来ビジョン（目指す姿）について」のパブリックコメントの実施結果について

平成 24 年 1 月
鳥取県：水・大気環境課
鳥取市：生活環境課

1 パブリックコメント募集の内容

昨年度に設置した「湖山池会議」において、湖山池の新たな塩分管理の方法、周辺農業者の今後の営農形態、市民の皆様が望む湖山池の姿などに関する情報収集や議論を重ねた結果を踏まえ作成した湖山池の将来の目指す姿を示した「湖山池将来ビジョン（案）」についての意見募集である。

鳥取県と鳥取市が同一時期に同一内容で県民・市民の方からの意見を募集した。

2 意見の募集期間

平成23年12月14（水）から平成24年1月6日（金）まで

3 応募のあった意見概要

(1) 意見の件数など

意見件数：34件（のべ10名） 回答方法：郵送、FAX、メール、持参

(2) 主な意見と対応方針

意見の概要 (括弧内数：同一内容の意見の件数)	対応方針
<p>A：高塩分化に関すること：4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒシやアオコが発生する悪環境を好環境に持って行く方向性は異論無し。 ・水門操作でもっと海水を導くのが良い。 ・高塩分化という人為的な環境改変で池に生息する希少動植物を含む全ての生物群に甚大な影響与えるのを承知で事業を進めていくのは無謀である。高塩分化の選択肢を再考すべきである。 ・高塩分化以外に水質改善する方法はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高塩分にする事で、市民アンケートでも多くの意見のあったヒシやアオコの大量繁茂による悪臭防止や景観改善を図るとともに、その環境に適したシジミなどの魚介類の増加も期待でき、内水面漁業の振興も図られると考えています。 ・高塩分化は、生態系に変化をもたらすことが予測されますが、市民要望でもあるアオコ・ヒシの問題解決や新たな漁業振興策となりうるシジミや汽水魚類の増加など現状の湖山池水環境の好転を図る取り組みとご理解願います。また、この取り組みに対して、この度、周辺の水田農家の皆様に畑地転換に同意していただいたところです。なお、高塩分化による湖山池の水環境の改善については、市民の主な意見であると考えています。
<p>B：生態系の保全に関すること：6件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園や遊歩道等の沿岸景観の配慮のみでなく生物保全のための配慮にも留意すべき。 ・生物が生息できないような極端な水質浄化はめざすべきでない。 ・高塩分化という人為的な環境改変となるので、少なくとも希少種についての生態系の動態予測は専門家等を交えきちんと整理し、失ってしまうこれらと得られるメリットとの比較論で方針決定の議論をすべき。 ・高塩分化に伴いこれまで生息していた生物が消滅してしまって二度と再生できな場合は想定されないか。レッドデータブックに記載されている希少種も湖山池には多く生息する。(2) ・高塩分化という人為的な環境改変で池に生息する希少動植物を含む全ての生物群に甚大な影響与えるのを承知で事業を進めていくのは無謀である。高塩分化の選択肢を再考すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高塩分により、ヒシやアオコの大量繁茂による悪臭防止や景観改善を図るとともに、その環境に適したシジミなどの魚介類の増加も期待でき、内水面漁業の振興も図られると考えています。 ・高塩分化は、生態系に変化をもたらすことが予測されるため、事前に植物、魚介類等の専門家による委員会を設置してその動態を検討・予測しました。その結果、淡水性の頻出種については生息量・生息域が減少する種はあるものの、流入河川河口部の低塩分水域で生息状況は維持できることを確認しているところです。中でも県条例で特定希少動植物としているカラスガイについては、生息状況を調査の上移植等の保護対応を取ることにしています。 ・ここ数十年の周辺の土地利用の変化や周辺住民の生活様式の変化等により湖山池の環境は変化してきています。千代川の河口の付け替えによる影響もその一つです。いろいろな歴史を経て、現在に至って

意見の概要 (括弧内数：同一内容の意見の件数)	対応方針
	<p>る湖山池の環境について、少なくともヒシの大量繁殖やアオコの大発生などによる環境悪化の悪循環を断ち切り、豊かな生態系を育む汽水域を創造していかうという取組であることをご理解願います。</p>
<p>C：水質浄化施策に関すること：8件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前のように千代川に繋げるほうが早く浄化されるのではないかと。(2) ・生活排水対策として下水道整備を進めるのが最優先である。(2) ・水田から畑地への転換に伴って、一層の肥料流出が懸念される。 ・池のために生活排水をきれいにしようとする関心が持てる施策を展開する。(生ゴミコンポスト機の購入補助や環境に優しい洗剤の配布など) ・市民による一斉清掃を実施してほしい。 ・将来ビジョン達成に向けた取り組みをスピード感を持って実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河口付け替え以前の状況に戻すことは、湖山川周辺の治水管理上の問題があり、困難です。 ・これまでも実施してきた生活排水負荷対策となる下水道整備や農地負荷対策となる減肥営農の普及などの各種水質改善対策は、今後、新たな水質管理計画を策定し、その計画に基づいて積極的に取り組むこととしています。 ・また、今まで実施されていない新たな水質改善対策の検討もこれまでに以上に取り組んでいきたいと考えています。
<p>D：公園整備等に関すること：4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキング、サイクリング等がより一層楽しめるような沿岸整備を進めてほしい。(2) ・親水レジャーとしてボート、ヨット等が利用できる施設を計画してほしい。 ・「湖山池将来ビジョン」は平成13年5月に策定された「霞の里構想」との関係や今後の扱い等についての考え方をお聞かせください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン基本理念である「暮らしに息づく池」を目指して、市民や観光客などの多くの人々が集う場として再生するために各種方策を検討していきます。 ・「将来ビジョン」は、湖山池の環境改善や水質管理の方向性を示し、将来的により良い水環境を目指すために策定するものです。一方、「霞の里構想」は、湖山池周辺の魅力的な公園づくりの構想をまとめたもので、その中で、湖山池の環境改善、水質浄化対策が湖山池周辺の魅力づくりに不可欠な要素の一つとして提言されています。この「将来ビジョン」の策定により、より一層湖山池の環境改善、水質浄化が図られ、湖山池周辺の公園の魅力向上に繋がるものと考えています。
<p>E：漁業振興に関すること：3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘドロ除去等によりフナ等の水生生物の生息に優しい池に改善すべき。 ・シジミの資源量を確保し、宍道湖のようなシジミ産地としての漁業振興をすべき。 ・石がま漁は継続できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高塩分化(水門開放頻度の増)にすることで、汽水環境に適したシジミなどの魚介類の増加や日本海からの汽水性魚類の移動の活発化も期待できると考えています。 ・この度の塩分濃度は、東郷池程度の塩分濃度とする計画です。石がま漁は、対象魚種であるコイやフナが東郷池でも生息していることから継続することは可能であると考えています。
<p>F：観光や地域振興に関すること：4件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報プラザ等の周辺施設を活用した各種イベントを企画して欲しい。周辺を憩いの場にして欲しい。 ・山陰海岸ジオパークのエリアであるため、環境保全活動や環境学習の強化が必要である。また環境学習には池の歴史・文化等を含む幅広いものが望まれる。 ・観光振興のために美術館を誘致してはどうか。 ・ヒシを特産品として売り出してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン基本理念である「暮らしに息づく池」を目指して、市民や観光客などの多くの人々が集う場として再生するために各種方策を検討していきます。 ・湖畔への美術館の誘致やヒシの特産品化の御意見については、拝聞させていただきました。

意見の概要 (括弧内数：同一内容の意見の件数)	対応方針
<p>G：その他の事項に関すること：5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖山池の将来の方針を決定する重要案件であるので幅広く市民に説明し、意見を聞くべきである。 ・この将来ビジョンを湖山池に関係する全ての者が共有し、連携・協働して取り組むことが大切。実施体制は、関係者の思いが集約されるような場の設定と改善への取り組みが同方向を目指すよう十分な調整が図られるべき。 ・日本一大きな池である湖山池を広くアピールできるよう市民としても協力できればと考える。 ・「湖山湖」と名称変更をしてはどうか。(湖のほうが良いイメージ) ・湖山池街道沿いの空き地、空き屋などの有効活用を考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定に当たり、市民や農業者へのアンケート調査も行う等市民の意見や意向をふまえたビジョンにするとともに、パブリックコメント等により周知に努めたところです。 ・ビジョンに記載のとおり、湖山池会議を継続運営し、その会議において関係者等の密なネットワークや意見交換の場を構築したいと考えています。 ・日本最大の「池」というPRポイントを大切にし、ビジョン基本理念である「暮らしに息づく池」を目指して、市民や観光客などの多くの人々が集う場として再生するために各種方策を検討していきます。